

## 佳作

### 風船が運んできてくれた夢

岩手県奥州市立水沢中学校

1年 青木 縁

あれはどうだろうか。将来の夢を考えたときに私は思った。あのとき、買い物ついでに行った銀行で忘れられないくらいの思い出ができた。まず、番号札を受け取った母は受付に向かった。あの頃の歳では何をしていたかも分からなかったため、ただただお母さんの背中を必死に追っていた。受付の女の人が「○○ですね。ありがとうございます。」と言っていた。ああ終わったんだと思い、その場を後にしようとしたら、受付の女の人から「お姉ちゃん、これどうぞ。」といわれ、少し大きめの風船をもらった。その時、とても嬉しかった。こんな体験は、私だけでなく、たくさんの子どもたちもしていると思う。でもこのことを仕事と思うか優しさと思うかは人それぞれだと考えている。でも私は、優しさだと今でも、しみじみ感じている。これを胸にひめた私は誓った。「私、将来あの時の女の人のようにどんな人に対しても優しく接することができるかっこいい銀行員になるんだ。」

そう決めたのは一昨年だった。その時から銀行員の仕事内容はもちろんのこと、行くべき高校や必要な資格などさまざまなことを調べたり、お母さんに聞いたりした。そのため分かったことや疑問な点がたくさんあり、どんどん楽しくなっていた。調べた中で、特に驚いた点としては、そのうちほとんどの金融業界が世界の技術の進歩によって、仕事が減ってしまうのではないのかという情報があった。私は昔から人と話をするのが好きで、銀行員の中でも受付を専門とした仕事がしたいと強く考えていたが、それもできないのではないかとされているため、悔しい気持ちでいっぱいだった。他にも、就職に有利な検定の数の多さという点だ。代表的なものだと、日商簿記や全商簿記、また、最近では英語検定・宅建・ファイナンシャルプランナーなどレベルの高い検定を受験して合格すると、より内定率が上がると書かれていた。そのなかで疑問に思ったことが一つだけあった。それは「銀行員は一つ一つの仕事に責任をもつ」ということだ。そんなのはあたり前だと思っていた。しかし、「責任をもつ」との意味が思っていたのと違っていた。

まず金融業界では、社員がお客様の大切な通帳を預かることもあれば、お金自体を預かる場合もあるということ。それを安易に持ち出して歩いたり、周りに情報を流してしまったりすると、お客様との信頼を失う悪いキッカケができてしまう。一つ誤るだけで大問題になるといえる。だから金融業界にとって「責

任をもつ」ことは、仕事をする上で、最も重要であり、その結果、金融業界と日本中の国民がつながるチャンスをもたらす、一つ的手段であることが分かった。銀行員は責任の重大さを教えてくれる数少ない職業であると思っている。それとともに、お客様のお金を預かるという貴重品の重さをこの仕事を通して理解できるよさもあると考えた。このように、銀行員という職業にはお客様とのコミュニケーションを上手にとれるようになっていたり、自分には足りなかった部分である「責任をもつ」ことの重大さ、大切さを学ぶことができるなどのメリットがいっぱいある。そして、銀行員の仕事には、窓口担当者や営業職・総合職のようにさまざまな業種の人たちが一つの場所に集まって仕事をする。そのため、業種によってももちろん環境が異なることから、その場に応じた対応をとることがポイントになるのではないかと思った。

これから先、私は夢である銀行員になるために特に努力したいことが三つある。一つ目はどんな人に対しても優しく接すること。たとえ自分より歳が離れていても敬語を使って、相手と情報交換をしていきたい。二つ目はいろいろな検定に向けて勉強すること。どの検定でもまず勉強をしないといけないが、そのおかげで検定に合格すると就職内定率が高くなるため、今後のことを考えて今のうちに、とっておくべきである検定の勉強をしていきたい。三つ目は、どんなことでも責任をもって行動すること。たとえ小さな頼まれごとでも結果としては大きいことにつながると思うので、どんな内容でも責任をもって、周りに感謝されるように活発に動いていくことを意識したい。どんな場面でもこの三つの努力事項を忘れず、将来に向けて少しずつ達成したい。

この作文を書くことで、私には絶対にながえたい夢ができた。でも夢ができるには、その出来事と結びつけるための「キッカケ」がないと生まれなことが分かった。私の場合、風船が大きなキッカケとなった。同じ風船でも他の人から見た風船と、私の目に映った風船では、その中身の大きさが全く違うと思った。キッカケは、人生を強くふみ出すための大きな一歩であるとはいつも思っている。